

益田市遠田地区遺跡分布調査報告書Ⅲ

1988年度

1989. 3

益田市教育委員会

益田市遠田地区遺跡分布調査報告書Ⅲ

1988年度



大元1号墳

序

遠田町には、典型的な群集墳である鞠ノ鼻古墳群や県内屈指の大型前方後円墳である大元1号墳などが良く知られていますが、このような遺跡が存在することから、なお未発見の遺跡も数多く存在すると予想されてきました。

しかし、一方では国営総合農地開発事業に伴う大規模な造成事業や圃場整備がすでに完了しており、遺跡保護の立場からすれば危機的ともいえる地域です。

こうしたことから、益田市教育委員会では、遠田町の遺跡の所在を確認し、将来の開発に備える目的で、昭和61年度より国庫補助事業として遠田地区遺跡分布調査に着手し、今日までに多くの成果を上げることができました。

この報告書は、3年間にわたる分布調査の結果をまとめたものです。今後、遠田地区における遺跡の保護と活用を図るうえで、本書を広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたってご指導とご協力をいただきました島根大学法文学部考古学研究室、鳥根県教育委員会ならびに土地所有者、参加者の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成元年3月

益田市教育委員会

教育長 水上 孫市

例 言

1. 本書は、益田市教育委員会が1988年度（昭和63年度）に国庫補助事業として行った遠田地区遺跡分布調査の概報である。なお、この補助事業は昭和61年度に着手し、昭和63年度までの3年継続事業として実施した。
2. 調査にあたっては島根大学法文学部考古学研究室及び島根県教育委員会文化課の指導と助言を得て、次のような体制で実施した。

調査主体 益田市教育委員会教育長 水上孫市

調査指導 島根大学法文学部教授 田中義昭

島根県教育委員会文化課主事 島谷芳雄

” 文化財保護主事 松本岩雄

事務局 益田市教育委員会社会教育課長 堀田泰治

” 体育文化係長 大庭清弘

調査員 益田市教育委員会社会教育課主事 木原 光

3. 調査に伴い下記の方々への参加と協力を得た。

新海正博 秋森貴則 河村創造 西尾秀道 林原 修 物部茂樹 木瀬高宏 池淵高史
大西貴子 金本江利子 野田直子（以上島根大学学生）高橋好市 藤本 勲 高橋房子
大久保貞紀 山地裕子 和崎幸子

4. 大元古墳群の測量にあたっては、昭和61年度以来土地所有者である大島敏、大谷寿雄、沢江喬、高橋好市の各氏よりご協力をいただいた。
5. 調査の過程及び報告書作成にあたり次の方々から貴重なご教示をいただいた。

内田律雄 勝部 昭 西尾克己 曳野律夫 宮本徳昭 渡辺貞幸

なお、巻頭に掲載した大元1号墳のカラー写真は村上勇氏（元島根県立博物館学芸主任、現広島県立美術館学芸員）の撮影によるものである。

6. 遺跡にはそれぞれ番号を付し、本文、遺跡分布図及び遺跡一覧表を通じて統一した。なお、昭和61年度調査より付した遺跡番号は、本書で改めて整理し直した。
7. 挿図に用いた方位は磁北を示している。
8. 本書の編集と執筆は木原が行った。

目 次

I. 調査に至る経過	1
II. 歴史的環境	2
III. 調査の概要	5
(1) 分布調査の結果	6
(2) 大元古墳群測量調査	12

挿 図 目 次

第1図 益田市位置図	1
第2図 益田市の主要遺跡分布図	3
第3図 地勢と年度別分布調査区域	5
第4図 大元古墳群墳丘実測図	13
第5図 遠田地区遺跡分布図	14

I. 調査に至る経過

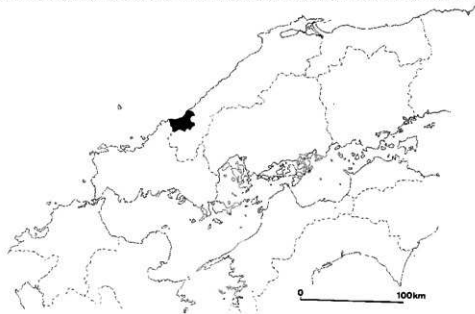
延々約183Kmに及ぶ風光明媚な海岸線をもつ島根県にあって、益田市は西端に位置し、山口県と県境を接している。北は日本海に面し、南には中国山地がひかえ、市域は、中国山地の山あい水源を発する益田川と高津川の二大河川によって河口に形成された三角平野を中心に広がり、面積は約302㎢、人口は約5万4千人を抱える。

また、島根県の海岸沿いを西下して山口市に向かう国道9号線と、下関市から北長門海岸国立公園を経て、さらに中国山地を横断して広島市に至る国道191号線が交わり、JR山陰本線と山口線の分岐点にあたる交通の要衝地でもある。

市域の総面積の約70%を林野が占め、肥沃な益田平野を中心とした水稻、果樹、野菜の栽培も盛んだが、古くからの活発な商業と企業誘致による工業の振興に伴い、商工業都市の性格を備えた島根県西部の中心都市として、発展しつつある。

このような状況の中で、益田市でも近年大規模な開発事業が行われ、中心部への人口集中による宅地化も急速に進み、開発事業に伴う発掘調査の件数も徐々に増加してきている。しかし一方で、市街地周辺部を除いてはこれまで遺跡分布調査がほとんど行われていないのが実情であり、市域全体の計画的な遺跡分布調査の必要に迫られてきつつある。

さて、今回の調査対象となった遠田町は、益田平野から久城及び乙吉の丘陵地帯を隔てた東に位置し、面積は約4.3㎢の町である。町域のほぼ中央を全長3kmあまりの遠田川が北流し、その南岸



第1図 益田市位置図

は河岸段丘と低丘陵地帯から成り、遠田川下流域にはごく平低の水田地帯が広がっている。

『全国遺跡地図—島根県—』によれば、遠田町地内に23箇所 of 遺跡が登録されているが、古くから典型的な群集墳である鶴ノ鼻古墳群が知られ、昭和48年に12大型の前方後円墳大元1号墳が発見されたことなどから、より多くの遺跡の存在が確実視されてきた地域である。

一方、昭和49年度から国営総合農地開発事業が開始されたが、これは高津工区と益田工区の両工区で農地造成で719ha、区画整理266haを内容とするもので、遠田町においても東部丘陵地帯で大規模な造成事業が行われた。また、これに伴い遠田川沿いの水田地帯も昭和59年度に温床整備が完了している。

遺跡保護の側からすれば危機的ともいえるこのような状況から、遠田町地内に所在する遺跡を早急に掌握することが必要と判断されたため、将来の開発に備えるべく、遺跡地図等の基本資料を作成することを目的として、昭和61年度より3年継続の両庫補助事業として遠田地区遺跡分布調査に着手した。

Ⅱ. 歴 史 的 環 境

さて、益田川と高津川によって形成された肥沃な益田平野を背景として、益田市には数多くの遺跡が存在し、周知の遺跡の数は200以上を数える。

現在のところ、旧石器時代に遡る遺跡は知られていないが、縄文時代の代表的な遺跡として安富千子台遺跡（安富町）がある。晩期の上器が主体であるが、弥生時代前期の上器も採取されている。また、昭和59年に近接する羽場遺跡（安富町）からも縄文土器に加えて須恵器や陶磁器も多数に発見されたことから、一帯には中世に及ぶ複合遺跡が存在する可能性が強くなってきている。

弥生時代に入ると、井元遺跡（木部町）、長者原遺跡（高津町）、日赤敷地遺跡（乙吉町）などがあるが、最近、小丸山古墳（乙吉町）の直下からも中期の上器が出土している。井元遺跡は、益田平野から東にはずれた木部川の河口近くに位置し、中期の土器を主体に、一部前期の土器も含まれる。また、長者原遺跡は海岸砂丘上に存在した遺跡で、昭和48年に砂取り工事に伴い発見され、弥生時代前期から中期にかけての土器や須恵器も出土している。石組みや列石状の遺跡が存在したことから墳墓群の可能性も考えられている。日赤敷地遺跡については、昭和45年に現在の益田赤十字病院を建設する際に弥生土器が採取されたといわれるが、詳細は不明である。さらに、益田市ではかつて乙子権現の近くで銅鐸が出土したとの伝承があるが、最近になって実際にそれを掘り出した人に偶然会う機会があり、話の内容からどうやら事実のようである。しかし、その銅鐸については現在行方が不明である。



1. 鶴ノ鼻古墳群
2. 大道古墳
3. 木片子遺跡
4. 高内古墳
5. 北ノ平塚塚
6. 大心古墳群
7. 行仏古墳
8. 杜山古墳
9. 谷上古墳
10. 高浜古墳
11. スタモ塚古墳
12. 専光寺跡古墳
13. 四ツ塚古墳群
14. 三角像神歌謡山土地
15. 山地古墳
16. 小丸山古墳
17. 鷲ヶ松古墳
18. 日赤戦地遺跡
19. 山ノ平山頂古墳
20. 山ノ平古墳
21. 片山橋穴群
22. 秋葉山古墳
23. 二宅御上屋跡
24. 七尾城跡
25. 北長迫横穴群
26. 南長迫横穴群
27. 丸山古墳
28. 長者原遺跡

第2図 益田市の主要遺跡分布図

さて、古墳時代になると、代表的なものとして四塚山古墳群（下本郷町）、大元古墳群（遠田町）スクモ塚古墳（久城町）、小丸山古墳（乙吉町）、鶴ノ鼻古墳群（遠田町）などが良く知られている。四塚山古墳群は昭和47年に宅地造成工事に伴い三角縁神獸鏡が出土した古墳で、主体部は箱式石棺と推定されている。工事中発見のため鏡自体は内区を欠失しているが、船載鏡と考えられ、今のところ、益田市における最古の古墳と考えられている。史跡スクモ塚古墳は、これまで全長100mに及ぶ前方後円墳といわれてきているが、一方では造出付き円墳と方形基壇状遺構が合体しているとする説もある。二段築成で、後円部には埴輪列が巡り、舟形も良く残っている。スクモ塚古墳に続く小丸山古墳は、全長約50mの前方後円墳であるが、昭和62年の1月から2月にかけて所有者によって一方的に破壊された。しかし、基底部は辛うじて残ると判断され、最終的には益田市が買収し、将来的には復元を予定している。破壊に伴い馬鐙や辻金具が出土しており、6世紀前半の築造と考えられている。鶴ノ鼻古墳群は典型的な群集墳で、もとは50数基の古墳があったといわれるが、昭和58年の分布調査によって31基の古墳が確認された。30m前後の前方後円墳4基、方墳1基を含み、他は直径10m前後の円墳で構成され、それぞれの古墳には横穴式石室が採用されている。比較的保存状態の良い19基が鳥根系史跡に指定されているが、指定地外は宅地造成工事によって11基のうち7基が残るのみである。横穴式石室を持った古墳としては他に、白上古墳（白上町）、秋葉山古墳（東町）、高浜古墳（久城町）などがある。また、鶴ノ鼻古墳群とは対照的に、益田平野周辺の丘陵地帯には北長迫横穴群・南長迫横穴群（赤城町）、片山横穴群（東町）など大規模な横穴群が存在していた。

さらに、須恵器の窯跡として、芝・中塚窯跡（西平原町）、杉迫窯跡（津山町）、桑ヶ迫窯跡（津田町）、木片子窯跡（遠田町）などがある。なお、木片子窯跡では須恵器の他に瓦も焼かれており、益田市周辺における古代寺院の存在を予想させる。

時代はやや下がるが、市内の代表的な遺跡として、12世紀の末から関ヶ原の役まで益田に拠った益田市に関連する史跡である七尾城や三宅御土居跡なども貴重な遺跡である。

以上、益田市の主要な遺跡について概観したが、『全岡遺跡地図—鳥根県—』を参考にすれば遠田町地内にはこれまでに23遺跡が記載されており、その内訳は、散布地11箇所、古墳9基、窯跡1箇所、寺院跡1箇所、城跡1箇所である。中でも、大元1号墳は全長90mに近い大型の前方後円墳として卓越した存在であり、広く益田地域を支配した首長の墓と考えられる。

さて「遠田」という地名は、益田本郷に遠い里という意に由来するといわれ、『和名抄』に記されている美濃郡八郷のうちの弍気郷の岡村と考えられている。中世には、益田荘のひとつとして矢富名とよばれ、江戸時代には浜田藩領に属していた。

Ⅲ. 調査の概要

昭和61年度以来、遠田地区遺跡分布調査は町域全体の踏査を行い、周知遺跡の再確認と新遺跡の発見に努めることを目的として実施した。分布調査には5千分の1の国土基本図を携帯し、遺物が採取された地点はすべて遺跡としてマークした。さらに、これまで周知遺跡とされているものすでに消滅したと判断される古墳をはじめとして所在が不明な遺跡については、住民からの聞き取り調査や小字の調査によってある程度の位置を推定することに努めた。しかし、これらについては、今後も継続的に調査を行ない、より確実な情報や遺物を収集する作業が残されている。

なお、分布調査の範囲を広げることに主眼を置いたため、3年間の事業を通じて、遺跡の有無や範囲確認のための発掘調査は実施しなかった。また、分布調査の1環として昭和61年度より大元古墳群の測量を継続して行った。

さて、今年度の分布調査は遠田町の北部、いわゆる下遠田とよばれる地域を対象に実施した。具体的には、安田小学校の前を東に入る谷の北側にあたる丘陵地を津田町との境まで、そして、国道9号線の西側丘陵地を海岸まで、さらに遠田川下流域の平野部、加えて遠田川の左岸にあたる丘陵地を西は久城町との境まで、北は海岸部までの範囲を踏査した。また、これまで未調査であった上遠田の一部地域についても今年度に分布調査を行った。以上をもって、遠田町全域の分布調査は一応完了したことになる。

今年度の分布調査によって新たに発見された遺跡は、津田町所在の2遺跡を含む23遺跡で、いずれも古墳時代以降の散布地であった。一方、大元古墳群の測量は周辺部もある程度取込んだ実測図を完成することができ、円筒埴輪の良好な資料も得ることができた。

調査は、昭和63年9月中旬より大元古墳群の伐採及び草刈り等の準備作業に着手し、併行して10月上旬まで測量を行い、平成元年2月末に補足測量を実施した。踏査は、平成元年の1月中旬と2月中旬に集中的に行った。

以下、今年度の分布調査で確認された遺跡の概要について述べる。



第3図 地勢と年度別分布調査区域

(1) 分布調査の結果

今年度の分布調査は、安田小学校の前を東に入る家の道の北側にあたる丘陵地を津田町境まで、さらに国道9号線の西丘陵地帯を海岸部まで、遠田川下流域の水田地帯、加えて、遠田川左岸にあたる市道中島津田線を挟んだ丘陵を西は久城町との境まで、北は海岸部までの地域を踏査した。また、これまで未踏査であった上遠田の一部についても今年度に分布調査を実施した。

その結果、津田町地内で確認された2遺跡を含め、22遺跡を新たに発見した。遺物が1片でも採取されれば一応遺跡としてマークしたが、片子東遺跡、岩ヶ本遺跡、架ヶ迫東遺跡、架ヶ迫西遺跡、原北遺跡、前原遺跡などは須恵器片が1、2片採取されたのみで遺跡の範囲などは全く不明である。また、この中には遺跡から遊離した遺物を採取した可能性がある箇所もあろう。一方、本片子東遺跡、森ノ上東遺跡、原南遺跡においては須恵器片多数が集散的に散布しており、本片子東遺跡はかつて近くで窯跡が発見されていることから、須恵器窯跡に関連する遺跡の可能性が高く、他の2遺跡は丘陵上あるいは丘陵裾部の緩斜面に位置しており住居跡の可能性が考えられる。なお、森ノ上北遺跡、森ノ上西遺跡は森ノ上東遺跡の範囲に含めても良いかもしれないが、一応別個の遺跡として扱った。また、原遺跡も地形、位置ともに原南遺跡に含まれるかもしれない。これらの他、片子遺跡、片子南遺跡、本片子南遺跡、原口西遺跡、原口東遺跡、地下田北遺跡、地下田南遺跡については数片以上の須恵器を採集したが、遺跡の範囲や性格を把握するために今後も資料を蓄積する必要がある。

古墳については、今年度の調査地域には磯ノ鼻古墳群、大道古墳などが現存しているが、すでに消滅したとされるウエ古墳、木屋ヶ森古墳、久城境古墳は、聞き取り調査によりその位置をある程度推定することができた。しかし、前浜古墳については、その位置を特定できなかった。

この他、生産遺跡として佐々木瓦窯、原瓦窯があった。このうち原瓦窯は昭和50年代前半まで操業していたが、昭和58年の山陰豪雨災害によって窯体はかなり崩壊してしまった。一方、原瓦窯は窯本体はすでに失われているが、物原には瓦片が多量に散布している。

以上、昭和63年度の成果について述べたが、昭和61年度からの成果を総合すると、すでに消滅したと考えられる遺跡や、文献に記載はあるものの現地での確認できなかったものも含めると60遺跡にのぼる。「全国遺跡地図－島根県－」によれば、遠田町地内に23遺跡が登録されているが、一連の分布調査によってその数が3倍近くになった。このうち新たに発見された遺跡は30遺跡である。

現在のところ、遠田町において、旧石器時代、縄文時代、弥生時代の遺跡は発見されていないが、今後の分布調査に期待するところが大きい。また、新たに発見された遺跡についても、継続的な分布調査を実施して、資料を蓄積することが必要である。

以下、今年度に確認した遺跡を一覧表で掲げる。

31	名称	地下田南遺跡	所在	益田市遠田町双葉
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	市道谷上遠田線の東にあたり、丘陵裾の西向き斜面で、現状は畑地である。		
	備考	須恵器片若干。新発見。		
32	名称	地下田北遺跡	所在	益田市遠田町双葉
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	丘陵裾から北西に突出する丘陵上に立地し、現状は畑地である。市道谷上遠田線の東側に位置し、地下田南遺跡からは北へ約30mの距離である。		
	備考	須恵器片。新発見。		
33	名称	国東治兵衛墓	所在	益田市遠田町国東団地内
	種別	近世墓地		
	立地	国東団地の北東部にあり、団地の境界間ぎわにあたる。		
	備考	史跡としてマーク。国東治兵衛は江戸中期の人で、「紙漉重宝記」を著したことで知られる。		
34	名称	寺取古右衛門墓	所在	益田市遠田町寺坂
	種別	近世墓地		
	立地	石仏古墳の立地する丘陵の南向き斜面。		
	備考	史跡としてマークしたが、伝説のみによる。		
35	名称	森ノ上東遺跡	所在	益田市遠田町古布気
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	市道竜田線の東に接し、丘陵裾の緩やかな段丘上で、現況は畑地である。 遺跡の東は遠田下流域の平野部に開く。		
	備考	須恵器片が多数散布する。新発見。		
36	名称	森ノ上西遺跡	所在	益田市遠田町古布気
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	市道竜田線の西側で、水田である。森ノ上東遺跡からは約20mの距離で、同遺跡の可能性が高い。		
	備考	須恵器片若干。新発見。		

37	名称	森ノ上北遺跡	所在	益田市遠田町古布気
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	森ノ上東遺跡から北西へ約30m、北向きに広がる水田中に位置する。		
	備考	須恵器片。新発見。		
38	名称	原南遺跡	所在	益田市遠田町原口
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	市道中島木部線の南側で、標高約23mの平坦な丘陵上に立地し、現状は西向きの畑地である。		
	備考	須恵器片多数。新発見。		
39	名称	原遺跡	所在	益田市遠田町原口
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	原南遺跡に近接する丘陵上の平坦地で、畑地に位置する。		
	備考	須恵器片。新発見。		
40	名称	原口西遺跡	所在	益田市遠田町原口
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	南向きの緩やかな斜面上に立地し、現況は畑として利用されている。		
	備考	須恵器片。新発見。		
41	名称	原口東遺跡	所在	益田市遠田町原口
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	南向き斜面の水田で、現在は荒れている。原南遺跡からは南へ約30mの距離である。		
	備考	須恵器片若干。新発見。		
42	名称	前原遺跡	所在	益田市遠田町進徳
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	市道中島木部線の北側にあたり、北東向き斜面の畑地である。		
	備考	須恵器片。新発見。		

名 称	しん とく 進 徳 遺 跡	所 在	益田市遠田町進徳
43	種 別 / 遺物散布地 (須恵器)	立 地 / 遠田川河口に広がる平野部の西に面した平坦な丘陵上である。遺跡は畑地中に存在する。 備 考 / 須恵器片。新発見。	
名 称	はら 原 窯 跡	所 在	益田市遠田町進徳
44	種 別 / 瓦窯	立 地 / 遠田川河口を望む、丘陵の北向き先端部斜面に築れている。 備 考 / 瓦片、窯道具多量に散布。原政次郎 (現在宇部市在住) が大正年間までは営んでいたという。作業場は背後の丘陵上にあったという。新発見。	
名 称	まえ はま 前 浜 遺 跡	所 在	益田市遠田町前浜
45	種 別 / 遺物散布地 (須恵器)	立 地 / 前浜の集落から遠田八幡宮にかけて海岸沿いを南西に伸びる細長い丘陵の東側に立地し、現状は畑地として利用されている。 備 考 / 須恵器片。新発見。	
名 称	たか しほ 高 芝 遺 跡	所 在	益田市遠田町井の迫
46	種 別 / 遺物散布地 (須恵器)	立 地 / 市道中島木部線の東沿いの畑地で、北に鶴ノ鼻古墳を望む、北向きの緩やかな斜面上に立地する。 備 考 / 須恵器片。新発見。	
名 称	ささき 佐々木 窯 跡	所 在	益田市遠田町井の迫
47	種 別 / 瓦窯	立 地 / 市道中島木部線と遠田漁港へ下る道路に挟まれた一面に位置する。 備 考 / 窯体は半壊の状態で、方向は南向きである。昭和56年頃までは営んでいたという。	

48	名称	うのほな 鶴ノ鼻古墳群	所在	益田市遠田町
	種別	古墳群		
	立地	日本海に突出した標高20mあまりの平坦な丘陵上に立地する。		
	備考	17基が県指定。 現存する古墳は前方後円墳4基、円墳19基、方墳1基で、主体部には横穴式石室が採用されている。6世紀後半から7世紀前半の築造にかかる群集墳で代表的な遺物としては単龍塚式柄頭がある。昭和58、59、60年度に益田市教育委員会によって発掘調査が実施されている。		
49	名称	だいどう 大道古墳	所在	益田市遠田町大道
	種別	古墳		
	立地	国道9号線から津田の町に入る市道津田線の西側にあたり、南から東向きに伸びる細い丘陵上の大道墓地の一面に立地する。		
	備考	主体部は箱式石棺で、かつては2基存在したといわれるが、現存するのは1基で、墳丘はすでに失われ石棺が露出している。		
50	名称	かたてひがし 片子東遺跡	所在	益田市津田町片子
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	国道9号線から南へ入る国営開バイへの進入路沿いに位置するが、すでに法面工事が行われている。		
	備考	須恵器片。新発見。		
51	名称	かたて 片子遺跡	所在	益田市津田町片子
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	国営開バイ進入路の西に広がる水田中に位置する。		
	備考	須恵器片若干。新発見。		
52	名称	ほんかたて 本片子北遺跡	所在	益田市津田町片子
	種別	遺物散布地(須恵器)		
	立地	片子遺跡から約100m北の、北東へ伸びる丘陵の東側縁辺の緩斜面に存在する。現状は畑地である。		
	備考	須恵器片。新発見。		

53	名 称	いわのちもと 石ヶ本遺跡	所 在	益田市遠田町
	種 別	遺物散布地（須恵器）		
	立 地	安田公民館の背後から北東に伸びる丘陵の東向き急斜面の畑地に立地する。		
	備 考	須恵器片。新発見。		
54	名 称	にしきたこ 西片子遺跡	所 在	益田市遠田町
	種 別	遺物散布地（須恵器）		
	立 地	国道9号線の東側、西向きの緩やかな斜面で、墓地の一角に存在する。		
	備 考	須恵器片若干。新発見。		
55	名 称	しだがまこ 菜ヶ迫西遺跡	所 在	益田市遠田町
	種 別	遺物散布地（須恵器）		
	立 地	安田公民館の背後の丘陵西側斜面に立地する。		
	備 考	須恵器片。新発見。		
56	名 称	しだがまこ 菜ヶ迫東遺跡	所 在	益田市遠田町
	種 別	遺物散布地（須恵器）		
	立 地	丘陵東向き斜面に位置する。		
	備 考	須恵器片。新発見。		
57	名 称	ほんかたこひがし 本片子東遺跡	所 在	益田市遠田町
	種 別	遺物散布地（須恵器）		
	立 地	国営開バイ進入路の東側、標高40mあまりの西に張り出す丘陵平坦地にあり 現状は畑地となっている。		
	備 考	須恵器片多数。新発見。		
58	名 称	ほんかたこみなみ 本片子南遺跡	所 在	益田市遠田町
	種 別	遺物散布地（須恵器）		
	立 地	本片子東遺跡から南へ約50mの距離で、西向き斜面の畑地に立地する。		
	備 考	須恵器片若干。新発見。		

(2) 大元古墳群測量調査

大元古墳群は、中遠田の別所益と迫ノ益に挟まれた標高64mあまりの丘陵上に位置する。

大元古墳群は昭和48年の島根県下埋蔵文化財分布調査によって発見され、その後、1号墳については昭和56年より主要部分の測量が行われた結果、全長90m近い大型前方後円墳として注目されてきた。

昭和61年度に着手した遠田地区遺跡分布調査の一環として、25cmコンターで1号墳及び2号墳の墳丘実測を実施し、今年度をもって一応の周辺部をも取込んだ実測図を完成することができた。

古墳群は松林中に、東の前方後円墳と円墳である2号墳が裾を接するように並んで築かれている。1号墳は、昭和58年の山陰豪雨災害によって被害を受けたが、ともに盗掘を受けておらず、良好な状態で遺存している。

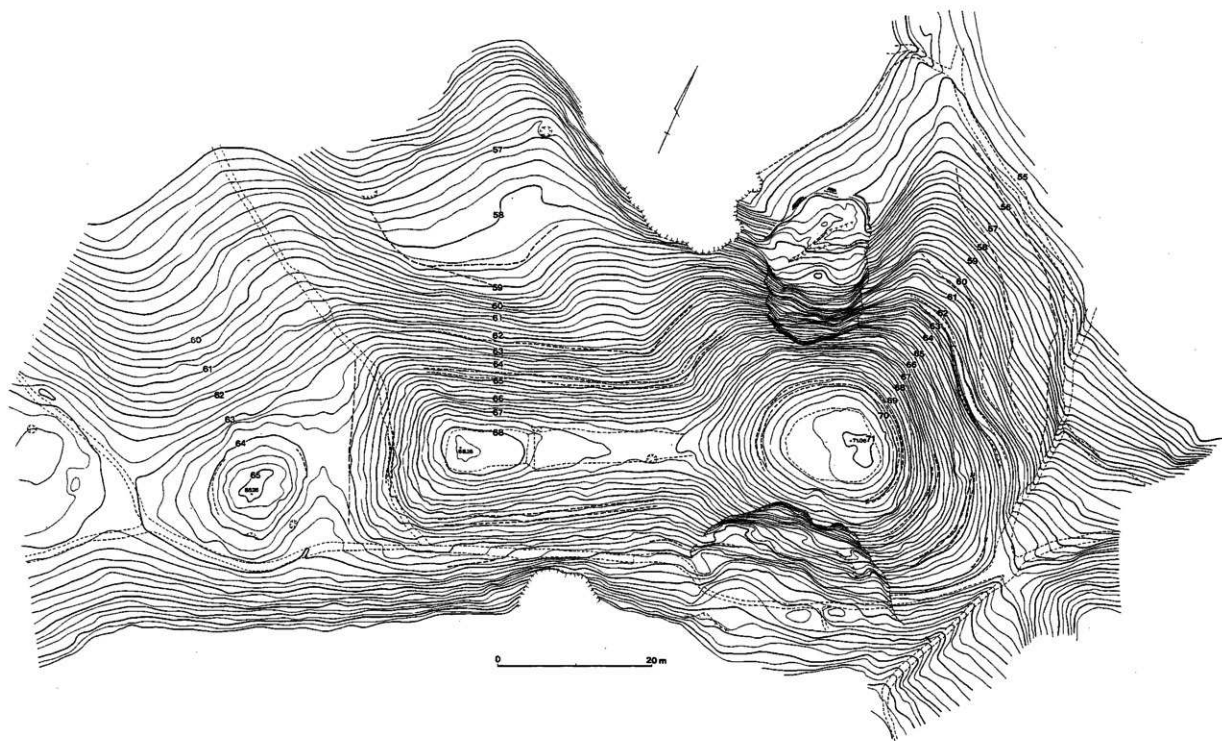
測量の結果、1号墳は全長87mを測る県下でも最大級の前方後円墳であり、後円部径約50m、後円部の高さ7m、前方部長約40m、前方部の高さ4.3m、前端部幅約31m、くびれ部の幅は約24mであった。また、後円部と前方部の比高差は約2.8mほどで、古墳の主軸は磁北から約68度東へ振っている。墳頂部は平坦面となっており、後世に削平を受けたものと思われる。

1号墳の墳裾及び段築は図中で破線で示した。前方部端の墳裾は明瞭に認められたが、後円部については、南東の四ツ辻に近いところ、標高64mあたりに部分的に傾斜変換点があり、これが後円部墳端の一部と考えられる。よって、前方部端と同じレベルとなる。なお、後円部の東側は全体的に封土が流れ落ちているため急斜面となり直線的な等高線を描くため、主軸上で全長を測ることができないが、図上復元で古墳の全長は87mとなる。後円部には、やや下明瞭ながらも3段の段築が認められ、1段めは標高65m～65.5m、2段めは67.5m付近に部分的に認められる。最上の段築は標高69.5m～70mの間で、両側を除いてほぼ全周する。また、後円部の北で発見された円筒埴輪がこの最上の段築部分にあったことは注意される。

一方、前方部の南側の墳裾は、古墳の南側に沿う山道沿いに部分的に確認でき、標高63.5mあたりとなる。前方部の北については、墳裾が62.5mから62.75mのレベルで前端部からくびれ部、さらに後円部へと続く。段築は64.5m付近にあり、これについても前方部北から後円部にかけて良く認められた。

その他墓石が後円部を中心に多く露出しており、前述した円筒埴輪は、川西編年のⅡ式に位置付けられると考えられるが、これについては改めて報告したい。さらに、大元1号墳については造出や周濠は備えていない。

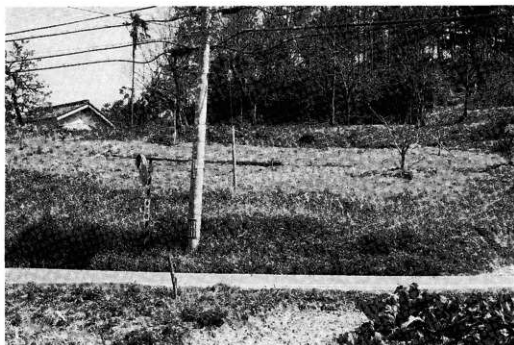
- (参考文献) 1978 川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』64巻2号
1987 益田市教育委員会「益田市遠田地区遺跡分布調査報告書Ⅰ」
1988 “ 『益田市遠田地区遺跡分布調査報告書Ⅱ』



第 4 圖 大元古墳群墳丘実測図



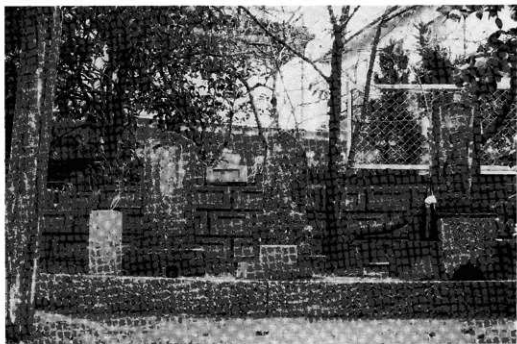
第5図 通田地区遺跡分布図



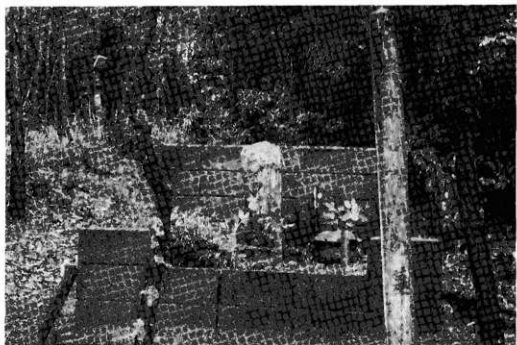
地下田南遺跡 (西より)



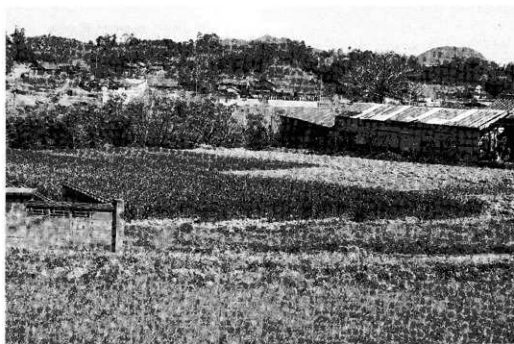
地下田北遺跡 (北より)



国東治兵衛墓



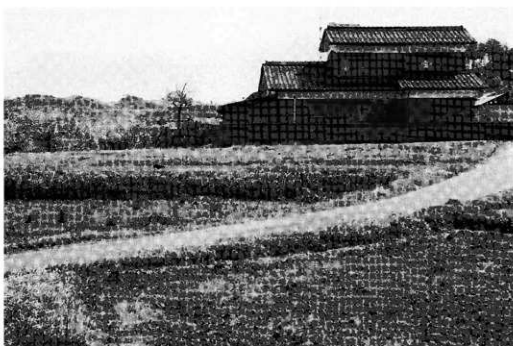
寺坂吉右衛門墓



森ノ上東遺跡（西より）



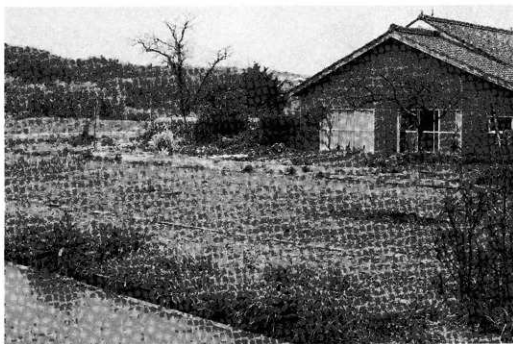
森ノ上西遺跡（東より）



森ノ上北遺跡 (北より)



原南遺跡 (東より)



原遺跡(北より)



原口西・原口東遺跡(西より)



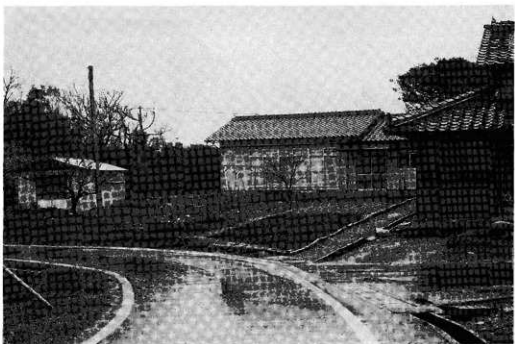
前原遺跡（東より）



新徳遺跡（南より）



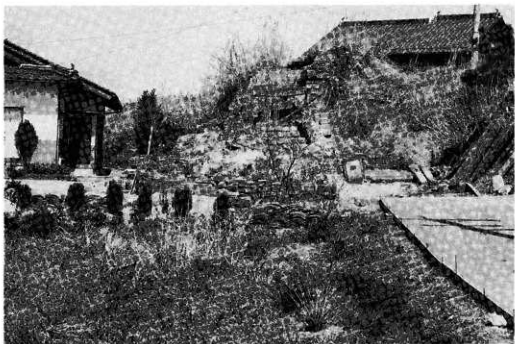
原 窯 跡 (北より)



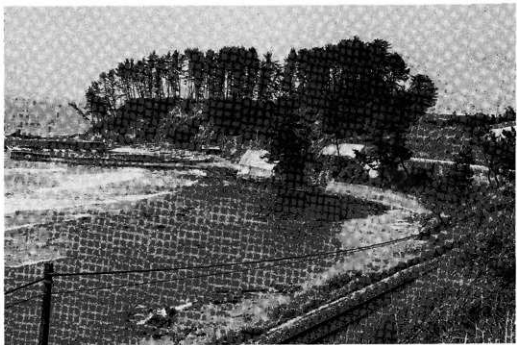
前 浜 遺 跡 (東より)



高芝遺跡(南より)



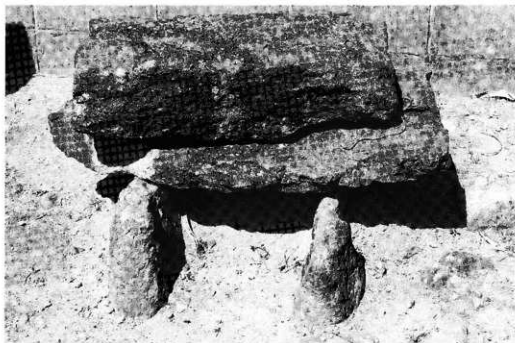
佐々木窯跡(南より)



遠 景 (南西から)



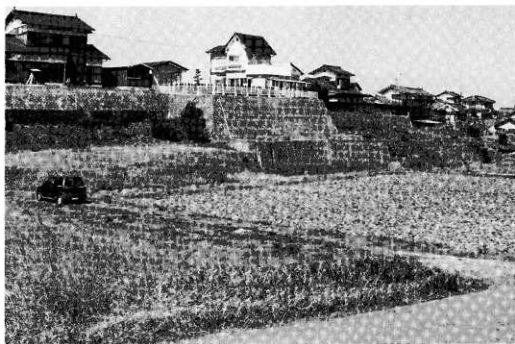
近 景



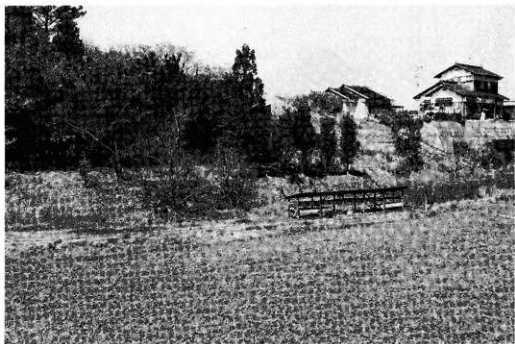
大道古墳



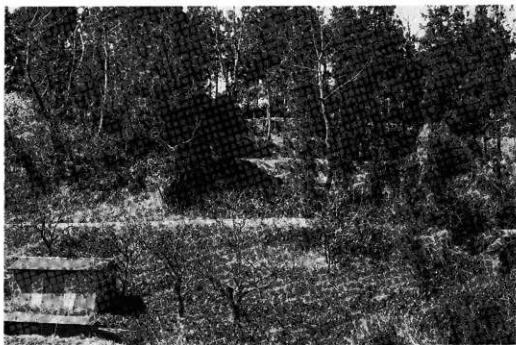
片子東遺跡 (西より)



片子遺跡(東より)



本片子北遺跡(東より)



岩ヶ本遺跡 (東より)



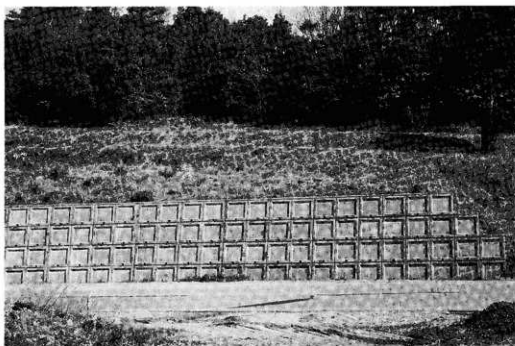
西片子遺跡 (西より)



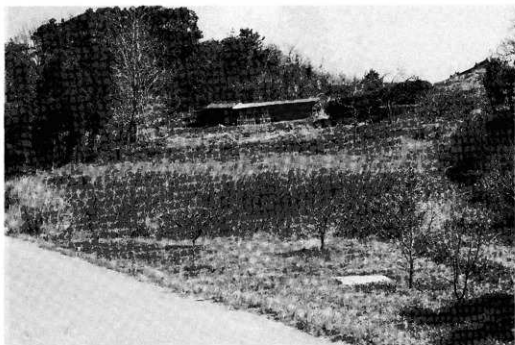
染ヶ迫西遺跡 (西より)



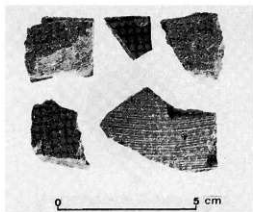
染ヶ迫東遺跡 (東より)



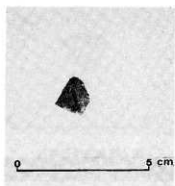
本片子東遺跡（西より）



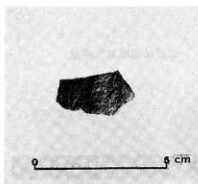
本片子南遺跡（南より）



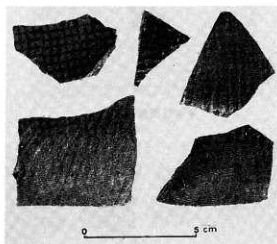
神出遺跡須惠器片



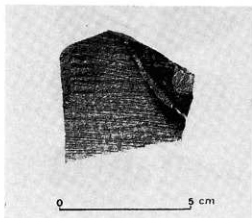
山城畑遺跡須惠器片



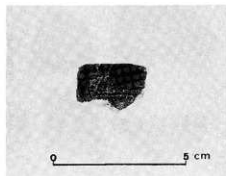
宝珠庵遺跡須惠器片



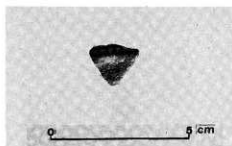
木原益奥遺跡須惠器片



神明北遺跡須惠器片



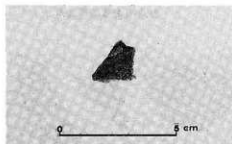
神明南遺跡須惠器片



蔵ノ段遺跡須恵器片



表

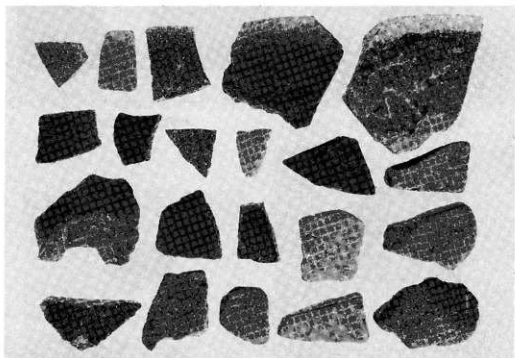


平遺跡須恵器片

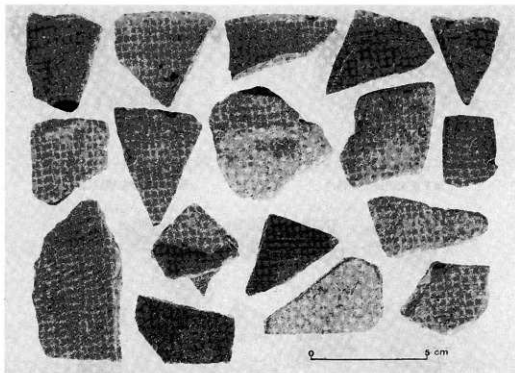


裏

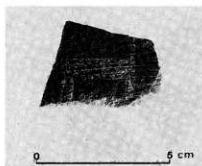
二反田遺跡寛永通宝



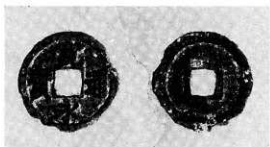
二反田遺跡須恵器片 (1)



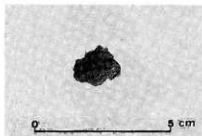
二反田遺跡須惠器片 (2)



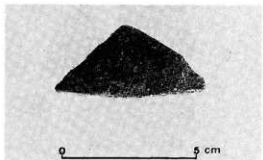
辻遺跡須惠器片



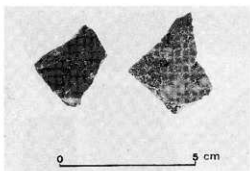
辻遺跡寛永通宝



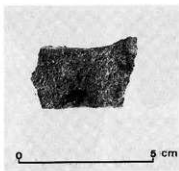
茶屋床遺跡須惠器片



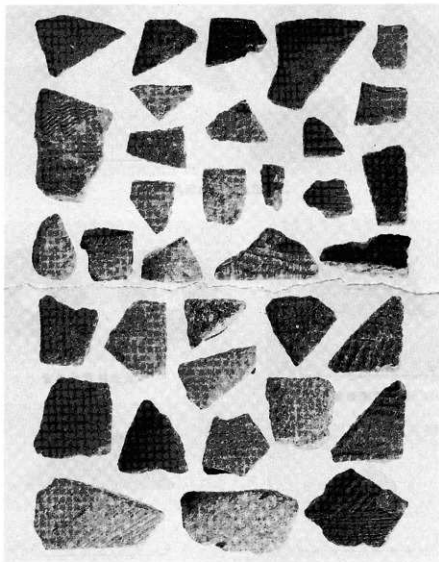
寺田遺跡須惠器片



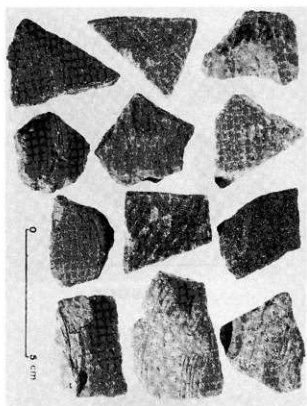
地下田南遺跡須恵器片



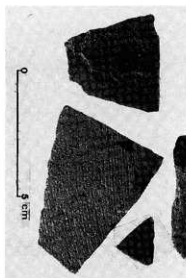
地下田北遺跡須恵器片



森ノ上遺跡須恵器片 (1)



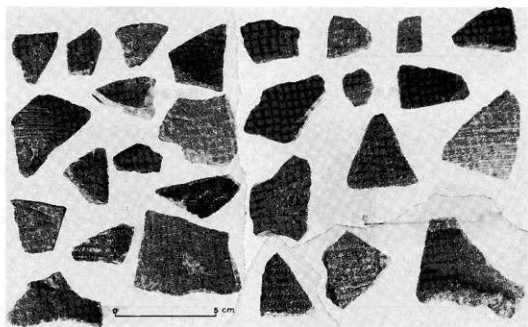
森ノ上遺跡須恵器片 (2)



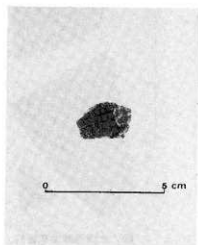
森ノ上西遺跡須恵器片



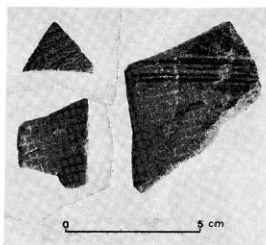
森ノ上北遺跡須恵器片



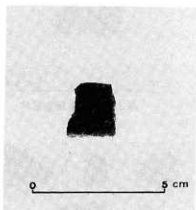
原南遺跡須恵器片



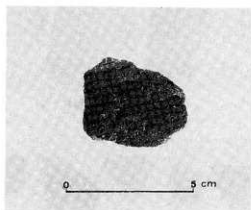
原遺跡須惠器片



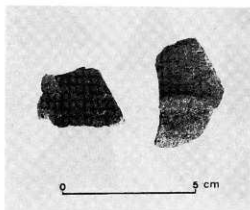
原口遺跡須惠器片



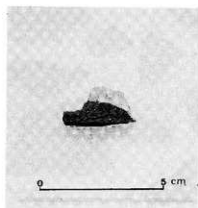
前原遺跡須惠器片



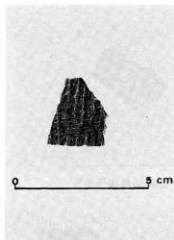
原北遺跡須惠器片



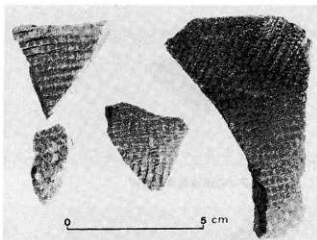
前浜遺跡須惠器片



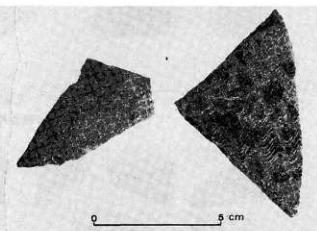
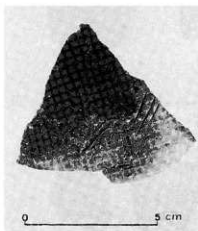
高芝遺跡須惠器片



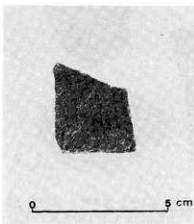
片子東遺跡須恵器片



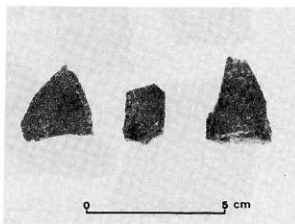
片子遺跡須恵器片



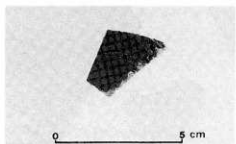
本片子北遺跡須恵器片



岩ヶ本遺跡須恵器片



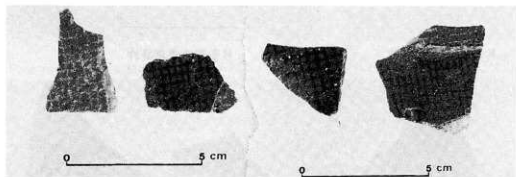
西片子遺跡須恵器片



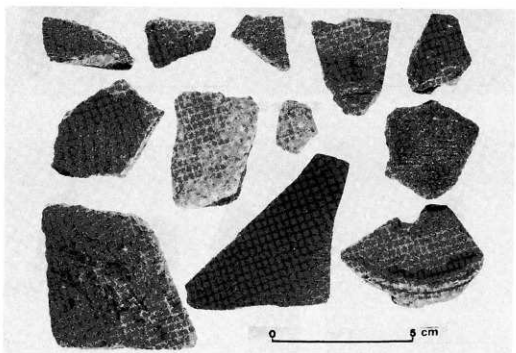
桑ヶ迫西遺跡須恵器片



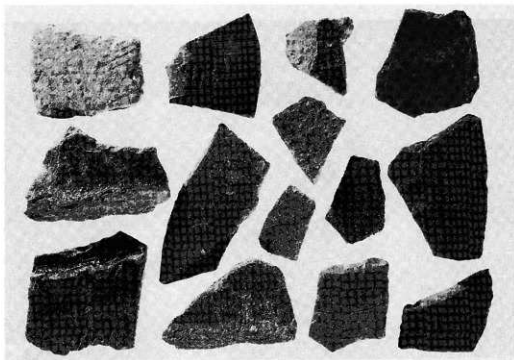
桑ヶ迫東遺跡須恵器片



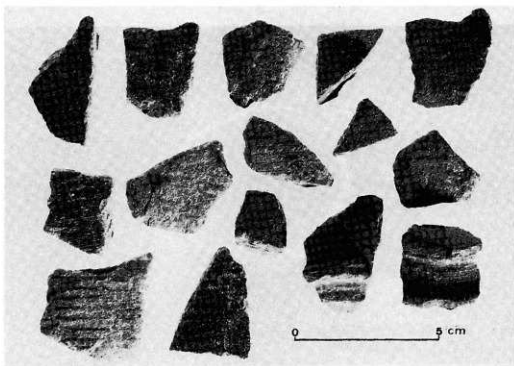
本片子南遺跡須恵器片



本片子東遺跡須恵器片 (1)



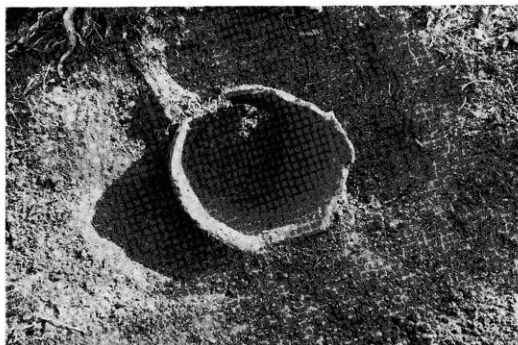
本片子東遺跡須惠器片 (2)



本片子東遺跡須惠器片 (3)



発掘前露出状況



発掘後出土状況



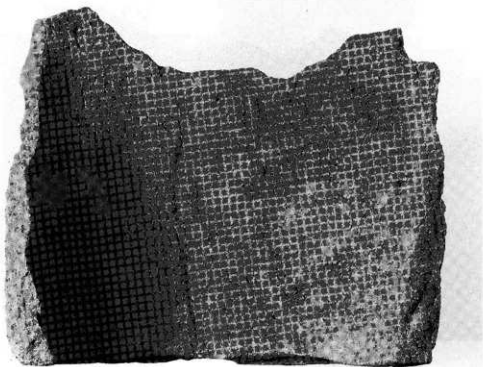
円筒埴輪



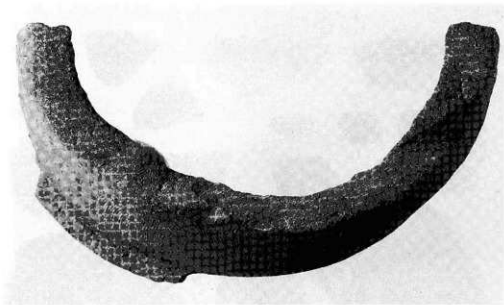
円筒埴輪



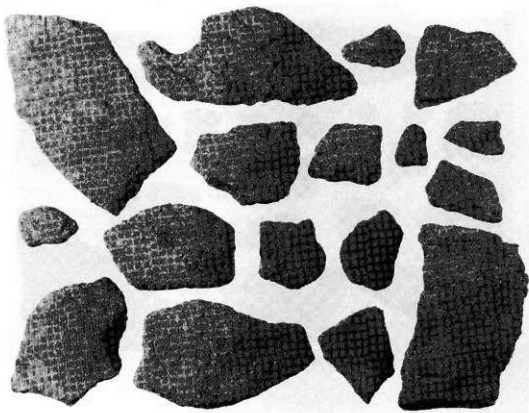
外 面



内 面

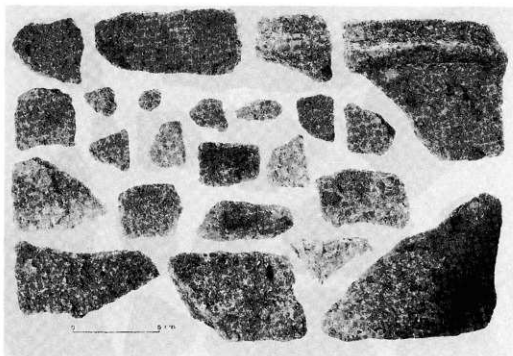
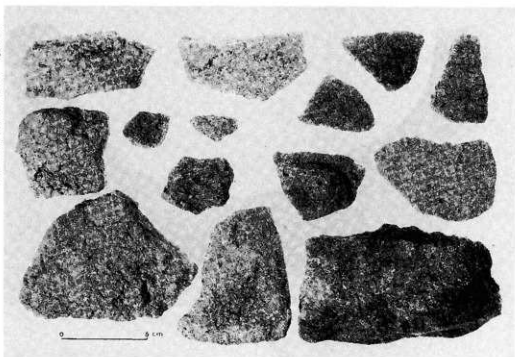


底 部



埴輪破片(表)

圖版 28
大元 1 号埴採取埴輪片



益田市蓮田地区遺跡分布調査報告書Ⅲ
(1988年度)

発行日 1989年3月31日
発 行 島根県益田市常盤町1-1
益田市教育委員会
印 刷 島根県益田市常盤町7-3
株式会社タイピック

益田市遠田地区遺跡分布調査報告書Ⅲ
(1988年度)

発行日 1989年3月31日

発行 島根県益田市常盤町1-1
益田市教育委員会

印刷 島根県益田市常盤町7-3
株式会社タイビック